

# KLIS TODAY

No.  
41

## 筑波大学 情報学群 知識情報・図書館学類

〒305-8550 つくば市春日1-2 Tel 029-859-1110 Fax 029-859-1162  
URL <https://klis.tsukuba.ac.jp/> E-mail [klis-info@inf.tsukuba.ac.jp](mailto:klis-info@inf.tsukuba.ac.jp)

### 創設100周年記念事業 電子展示について

白井 哲哉

私たちの学類は一世紀に及ぶ学びの伝統を持っています。

今から100年前の大正10年(1921)6月1日、東京上野の東京美術学校(現在の東京芸術大学美術学部)の校内に、日本初の常設司書養成機関＝図書館学校として、文部省図書館員教習所が開設されました。図書館学校の系譜は、昭和24年(1949)文部省図書館職員養成所、同39年(1964)図書館短期大学、同54年(1979)図書館情報大学などを経て、現在の筑波大学情報学群知識情報・図書館学類などに至ります。

2021年11月1日、図書館学校創設100年を記念する電子展示が、本学類のホームページ内に開設されました(左写真)。図書館学校の歴史を物語る約40点の資料を精選し、その背景に触れる解説文を付して、二つのアプローチで構成しました。「年表で見る100年」では、資料を通してその時代や学んだ記憶などを振り返ります。「写真で見る100年」では、資料から図書館学校の歴史に直接迫ります。

展示資料は、学校の記録文書のほか卒業生の集合写真、キャンパス内外の写真、学生新聞、入学案内、授業パンフレット、看板など多様です。たとえば「図書館大学(仮称)創設準備室」看板(右写真)は、後に図書館情報大学となる新大学の創設準備室が昭和52年(1977)に設置された際、入口に当初掲げられたものです。図書館学校に対する当時の熱意が偲べれます。皆さんが学類の情報や案内を調べるとき、一度、電子展示のページも覗いてみてください。皆さんの気づかなかった学類の記憶や背景に触れることでしょう。

なお電子展示の構築プロジェクトは、呑海学類長、小泉先生、時井先生、綿抜先生と白井が担当しました。  
(しらい・てつや 知識情報・図書館学類 教授)



左：創設100周年記念事業HP  
(<https://klis.tsukuba.ac.jp/klis100th/>)  
右：図書館大学(仮称)創設準備室看板  
(昭和52(1977)年4月)



## 卒業研究紹介

日本国内におけるHSP (Highly Sensitive Person) 当事者に関する研究

橋本 佳奈

私は「HSP」とよばれる人びとに着目し、当事者へのインタビュー調査を行いました。HSPとは「とても敏感な人」をあらわす言葉で、近年国内では「HSP」「敏感すぎる人」「繊細さん」といった呼び名で広まってきています。テレビで紹介されたり関連書籍が数多く出版されたりするのを見て「どうして注目されているのだろう」と考えたのがきっかけです。調査を通して、HSP当事者たちの現状を明らかにし、HSPという言葉がかれらにとってどういった役割を持っているのか考察することができました。この研究が少しでも「敏感すぎて悩んでいる人びと」に貢献できれば幸いです。

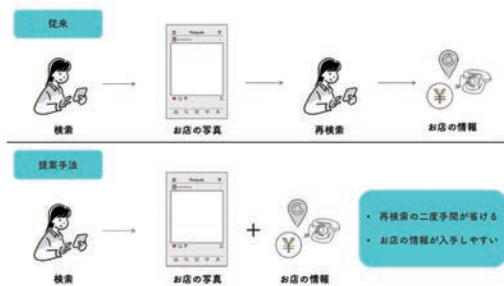
### 調査結果まとめ

- 自認後の当事者のなかにはHSPの特性を知って考え方や生活に変化がおきた者がいた
- 自身がHSPであることを自己分析的に受け止める当事者や、安心や不安を感じたりして感情的に受け止める当事者たちがいた
- HSP概念の社会への広まり方に違和感をもっている当事者たちがいた
- 当事者のなかには、HSPのなかの多様性を感じている者たちがいた

(はしもと・かな 知識科学専攻4年次)

Instagramの写真を利用した飲食店検索支援システムの構築

孫 辰希



Instagramを使って、おしゃれや人気な飲食店検索をする人が増えています。しかし、Instagram上で飲食店検索をしても、予算や営業時間などのお店の情報が必ずしも得られるとは限らず、再度検索し直すという二度手間が生じてしまいます。そこで、飲食店検索サイト(食ベログ)のデータとInstagramを紐づけ、Instagramの写真とお店の情報を1つの流れで閲覧できるシステムを構築し、Instagramでの飲食店検索を従来よりも容易にできる手法を提案しました。その結果、提案手法に有効性が見られ、将来的には、実際にInstagramの1つの機能として組み込むことで、多くの人への、より容易な飲食店検索の提供を目指します。

(そん・たつき 知識情報システム専攻4年次)

ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスからみる子どもの貧困対策  
ー サマーラーニングプログラムを中心に ー

渡辺 百香

ニューヨーク市では、社会課題として子どもの貧困問題に対する取り組みが求められています。本研究では、経済的レベルに関わらず全ての市民がアクセス可能な活動として、ニューヨーク公共図書館が提供する教育支援サービスに注目しました。私は、政策・図書館・利用者という3つの視点から調査を行い、ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスがどのような方法で貧困層の子どもの学びを支えているのかを明らかにしました。本研究が、公共図書館が持つ子どもの貧困対策の可能性に着目するきっかけとなれば幸いです。

### まとめ

- (1)政策的視点 教育格差や貧困の連鎖が課題となっており、子ども達が平等に質の高い教育にアクセスすることができる環境づくりが政策的に必要
- (2)図書館の視点 サマーラーニングプログラムは、人とのつながり、逆境を乗り越える力、読書と学習習慣、経済面での配慮という多面的な支援をあらゆる子どもに提供
- (3)利用者の視点 教育支援サービスを利用することで、困難な状況の中で多様な学びを経験。利用者は、ニューヨーク公共図書館を平等な学びの場として捉えている

ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスは、多言語資料やオンライン資源の活用、図書館員による4つの側面への取り組みから、貧困層の子ども達の学びを支援

(わたなべ・ももか 情報資源経営専攻4年次)

## 学びを飛躍させる学校図書館をつくるために

小野 永貴

皆さんは、学校図書館と聞いてどのような光景を思い浮かべますか。私が人生で最も印象に残っているのは、中学生時代です。私のいた中学校の図書室は、休み時間や放課後にふらっと立ち寄る生徒が多く、常に司書さんと誰かが楽しく話をしており、笑い声の絶えない空間でした。館内にはPCとプリンタが3台あり、文書を打っている人もいれば、ゲームをしている人もいました。コピー機やハサミ等の事務用品を使って作業もできましたし、将棋盤も置いてあって頻繁に遊んでいる人がいる雰囲気でした。もちろん、図書や雑誌、視聴覚資料もきちんと所蔵されていて、読書や勉強をしている人も多数いたことは、言うまでもありません。

この経験談を読んで、共感する人もいれば、驚く人や怒る人もいるでしょう。私自身、この図書室が“標準的でない”と知ったのは、はるか後でした。今思うと、1999年当時としては間違いなく画期的な学校図書館だったのですが、若き日の自分は気付いておりませんでした。これこそが、学校図書館分野の面白さであり、課題でもあります。

日本の学校図書館は、誰もが一度は訪問経験のある存在にも関わらず、想起するイメージは人により全く異なります。そのため、自分の経験を“標準的”と思い込み、つい印象論で語られがちです。しかし、学校も児童・生徒も時代に応じて日々変化しているので、個人の経験だけを基に語るのは危険です。より良い学校図書館を実現するには、「今この学校ではどのような教育が行われ、児童・生徒はどのように学んでいて、その学びへ学校図書館はいかに貢献できるか」という本質を見極め、客観的に議論する姿勢が不可欠です。

客観的な議論のためには、教育に関する理論や学習データといった科学的根拠に立脚し、あるべき学校図書館機能を考究することが必要です。本学類の授業を通してこれらの知見をお伝えし、学校図書館の本質を見極める眼をもった卒業生を一人でも多く輩出することが、私の目標です。



高校教師時代の授業風景（8年前まで情報科の教諭でした）

着任のご挨拶：2021年9月に着任しました、小野永貴と申します。専門は学校図書館、学習情報資源、情報教育などで、特に直近では図書館の高大連携について研究してまいりました。学類の授業では「学校図書館論」「学習指導と学校図書館」などを担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

（おの・はるき 知識情報・図書館学類 助教）



## サバティカル報告

宇陀 則彦

オランダに向けて出発したと思ったら九州の伊都にいました。九州大学の伊都キャンパスは2005年から移転を開始した新しいメインキャンパスです。中央図書館は移転が最も遅く、2018年10月にグランドオープンを迎えました。私はこのピカピカの中央図書館内に研究室をいただき、住居も伊都キャンパス内にあるゲストハウスを借りることができました。

九州大学には、知識情報・図書館学類のライバルともいえるライブラリーサイエンス専攻があります(大学院なので正確には情報学学位プログラムのライバルです)。ライブラリーサイエンス専攻は2011年4月に大学院統合新領域学府内に開設されました。ここは「図書館情報学」と「アーカイブズ学」を基盤として、ユーザーの視点にたった情報の管理と提供を可能とする、新たな知の創造と継承の「場」(=「ライブラリー」)を教育研究の対象としています。我々と同じ世界を対象していますが、切り口が違います。ほほうと思って見ていたら、向こうも私をふふーんと見てきました。お互いがんばりましょう。

研究室が近かったので、三輪宗弘先生というアーカイブズ学の先生と知り合いになりました。三輪先生は声の大きい方なので、三輪先生とお会いするときはマスクを3枚重ねにしると助言をいただきました。もちろん嘘です。色々話していると、突然「真珠湾攻撃の開戦通告が遅れた原因は通説とは違うんです。僕が新しい史料を発見し、通説を覆しました」とおっしゃるので、「え、どこの史料ですか?」と質問したら、「米国公文書館の史料です。多分あのあたりにあるに違いないとあたりをつけた場所を全部調べました。アーカイブズは宝探しのようなものです」とすごいことをおっしゃいます。「ホンマかいな」と思って後で調べたら本当でした。Googleで検索すると、すぐに出てくるので皆さんも確認してみてください。

普段は「知識情報概論」の中身を充実すべく、本の表紙を眺めて過ごしました。私のサバティカル生活はこんな感じでした。



中央図書館内を4Fから臨む



表紙を見やすいように本を並べた机

(うだ・のりひこ 知識情報・図書館学類 教授)